四條畷市議会議員（無所属）　一級建築士
作成：2017.05.21
市政報告06月号

長畑ひろのり News vol.115

(C)2013 Kohama Studio

四條畷市議会も新体制で始動

昨年の５月１８日に就任した議長職ですが、１年を経て今年の５月１８日で無事に終わることができました。

任期中に通年会期制が実施できた（平成２９年５月１日より）ことや“四條畷市議会だより”も市広報誌と合併号（５月号より）となりページ数も増えカラーとなったこと、市議会における災害発生対応要領を定め市議会災害等対策連絡会議を作ったこと等、この１年で多くの改革を行い市民皆様の議会となるために前進したのではと考えています（通年会期制の詳細については、長畑ひろのり News vol.111）。

そして、同時に大阪府市議会議長会の副会長をさせて頂いたのは、良い経験となりました。

さて、新体制は以下の通りと決まりました。

議　長	曽田 平治	議員（市議会公明党）
副議長	藤本 美佐子	議員（畷ビジョンの会）
会計監査	大矢 克巳	議員（なわて政新会）

私の所属する委員会と一部事務組合や審議会も下記のように決まりました。

- ◉総務建設常任委員会
  予算決算常任委員会
- ◉くすのき広域連合議会議員
  四條畷市交野市清掃施設組合議会議員
  東部大阪治水対策促進議会協議会委員
  四條畷市都市計画審議会委員
  四條畷市住居表示審議会委員

議員になって１１年目となります。３年目より常に幹事長を務めてきました（議長や副議長を就任していた時は除く）が、その役職も島議員にお願いしました。

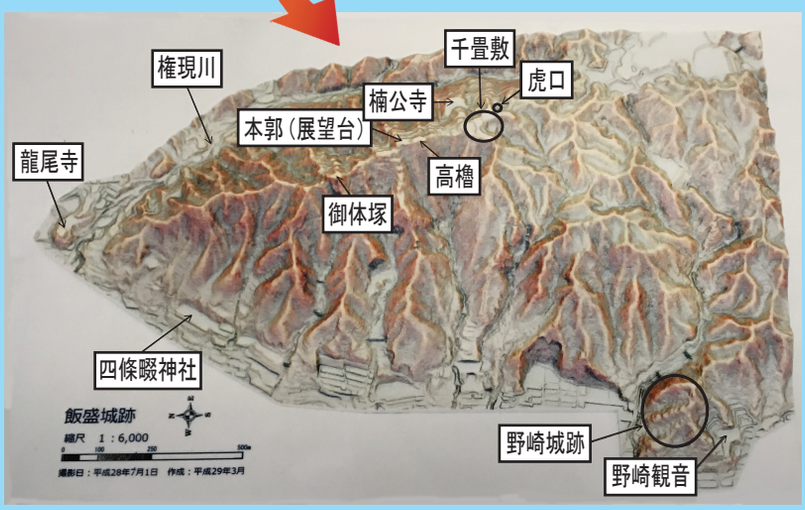
飯盛城跡のレーザー測量調査

飯盛城跡を国史跡の指定とするために、本市と大東市が協力をし、それぞれの市に専門委員会を立ち上げています。予定では、平成３２年度に文化庁へ意見具申するための報告書を作成することになっています。

そこで、その専門委員会において詳細な調査を進めるため、平成２８年に飯盛城跡の航空レーザー測量調査を実施しました。その結果、これまで城郭専門家による現地踏査調査ではわからなかった新たな曲輪や石垣の発見がありました。今後は、専門委員会においてそのデータを解析し、現地調査をしながら詳細な検証を行う予定になっています。

また、そのデーターに基づいた赤色立体模型が作成（画像下）されました。その模型は、四條畷市立歴史民俗資料館に置いてあり、７月１７日まで「平成２８年度　飯盛城跡　調査速報展」と題して展示されています。都合のつく方は是非ご覧下さい。

今後も、新しい技術と研究で少しでも多くのことが解明されるように願っています（飯盛城跡の詳細については、長畑ひろのり News vol.094）。



ところで、公益財団法人日本城郭協会が平成２９年度に創立５０周年を記念する事業として、平成１８年度に選定発表された「日本１００名城」に引き続き「続日本１００名城」を新たに選定し、「城の日」である４月６日に発表されました。

この「続日本１００名城」の選定に対しては、約３００名の方々から約５００城の推薦があり、選定委員により２２７城が最終候補として残りました。そして、嬉しいことに最終選定会議の審議で飯盛城が「続日本１００名城選定城郭番号１６０ 飯盛城」として選定されました。

毎月発行している“長畑ひろのり News”を、約半年ごとに送っています。
送付の必要な方は、送付先を FAX もしくは e-mail にてお知らせ下さい。

長畑ひろのり事務所　FAX 072-877-1280
e-mail　sky@nagahata.jp

http://nagahata.jp

Instagram　mixi　twitter　facebook　ココログ

自治体間の子ども医療費無料競争

画像の記事によりますと、１９６１年に全国の自治体で初めて０歳の医療費を無料にしたのが、岩手県西和賀町（旧沢内村）の故深沢晟雄村長だそうです。以下に、記事の一部を抜粋します。

「『赤ちゃんは村の宝もの。大事にしなさい』と村長は言っていた」と元職員、米沢一男さんは振り返る。当時、村では豪雪や貧困で乳児が多く死んだ。「赤ちゃんの命を守る」。深沢さんは闘った。無料化は国民健康保険法に反すると国や県は反対。「憲法には違反しない」と押し切った。

半世紀たち、山村の命を守る取り組みは、自治体の住民獲得競争に変質した。

砂上の安心網

ゆがむ分配 ⑤

矛盾

「病院タダ」に潜む

最後に払うのは、あなた

住民獲得競争に

雪深い岩手県の山村に、目指す理像はあった。西和賀町（旧沢内村）。雪よりの理想に守られた元村長、深沢晟雄さん（故人）だ。深沢さんは1961年、全国の自治体で初めて0歳の医療費を無料にした。

乳児が多く死んだ。「赤ちゃんの命を守る」。深沢さんは闘った。無料化は国民健康保険法に反すると国や県は反対。「憲法には違反しない」と押し切った。

半世紀たち、山村の命を守る取り組みは、自治体の住民獲得競争に変質した。

最近、子どもの医療費を無料にする自治体が目立つ。子育て支援はとても大事だ。でも社会保障のお金は増える一方。「タダで大丈夫？」。不安にかられ、材拠点、無料化の原点を探ろうと旧沢内村を訪ねた。

「『赤ちゃんは村の宝もの。大事にしなさい』と村長は言っていた」と元職員、米沢一男さんは振り返る。当時、村では豪雪や貧困で乳児が多く死んだ。「赤ちゃんの命を守る」。深沢さんは闘った。無料化は国民健康保険法に反すると国や県は反対。「憲法には違反しない」と押し切った。

半世紀たち、山村の命を守る取り組みは、自治体の住民獲得競争に変質した。

「長男がアトピーで週1回は小児科に行く。無料は

故深沢晟雄村長（写真中央は胸像）の思いは乳児死亡率ゼロにあった（岩手県西和賀町）

日本経済新聞（2017.2.21）

現在は記事にある通り、自治体間の競争になっています。まず子ども医療費助成制度ですが（所得により違います）大阪府は府内の市町村に対して、０歳から６歳（小学校就学前）まで行なっており、それ以上の助成については各自治体が勝手に行なっている状況です。以下の表は、本市を含む大阪府内の主な例です。

市　名	助成対象		所得制限	一部自己負担金
	通　院	入　院		
四條畷市	中学卒業まで	中学卒業まで	無	１医療機関ごと、月に１日目と２日目最大５００円まで自己負担していただき、３日目から無料になります。 １人あたりの一部自己負担金の合計が月２５００円を超えた場合は、市への申請によりお返しします。
大東市	中学卒業まで	中学卒業まで	無	
寝屋川市	高校卒業まで	高校卒業まで	無	
摂津市	２２歳まで （ただし、平成３０年度より実施）	２２歳まで	無	

以上が各市とも予算組みに苦慮した中での結果で、特に摂津市は２２歳まで無料と思い切ったことを今後されます。しかし本市は、市議会として平成２７年４月の改選より議員定数を４人削減することを決め、そのことで浮いた予算を“中学校卒業までの医療費に充てて欲しい”と市議会側から要望した結果ですので、少し他市とは違う流れだと思います（詳細については、長畑ひろのり News vol.085 にて）。

ちなみに産経 WEST の記事によりますと『摂津市の森山一正市長は「子育て世帯の転出超過という課題を解消するためにはさまざまな施策を打ち出さなければならない。対象年齢の拡大は人口減対策の一助だ」と話した』そうです。

しかし、それで良いのでしょうか。私の危惧していることが先の記事の締めくくりに載っていますので、以下に抜粋します。

厚生労働省の試算では、全自治体で高校生まで無料にすると約８４００億円かかる。日本の防衛費の約６分の１だ。うち３０００億円はタダだからと病院に駆け込むといった受診増分だ。「これが一番の問題」と慶応大の土居丈朗教授。「無料化による過剰受診で国民の財政負担が増えている」

こんな過去を思い出す。「大学出も、７０、８０のおばあさんも同じ１票」。こう語ったという田中角栄元首相（故人）が「福祉元年」と宣言した１９７３年、７０歳以上の医療費無料化が始まった。高齢者が病院に押し寄せ、医療費が急増し、１０年後に頓挫した。

次世代に優しく見える無料化は、社会保障費が膨張すれば次世代へのツケになる。タダではなく「１回ワンコイン」の負担で、コスト意識を啓発する動きもある。こんな視点がもっと広がってもいい。富裕層でもタダにするような歯止めなき無料化は「いつかきた道」にならないだろうか。

このような状況の中、守口市の平成２９年度予算に幼児教育・保育の無償化に６億７，４５５万６千円が計上されました。所得制限も一切無く、０～５歳児の認定こども園、保育園（所）、幼稚園、特定地域型保育事業の利用者負担額が、このことにより無償となりました。

ふるさと納税も同じですし、例をあげればキリがありません。このような自治体間の競争、いつまで続くのでしょうか。本市としても、他の予算を削ってまで延々と他市に追随していかなければならないのでしょうか。

財力の豊かな自治体が勝利するのは競争を始めた時点で見えています。特に子ども医療費助成については、国もしくは都道府県単位でしか助成は出来ない等、早急に国として何らかの対策をして頂かないと、先の記事通り次世代へツケが回ってくるのは間違いありません。